

TTC ゆった〜り山行実施記録表 2022年5月14日 報告者: Y.M. (1/4)

山行名	奥信濃 戸隠・鬼無里奥裾花自然園水芭蕉ハイキング [長野県]	
実施日	令和4年5月09日(月)~10日(火) 1泊2日 14人乗ハイエース利用	
天候/参加人員	天候:5/9:雨/5/10:晴、レベル:★ 参加者:申込12名/実施11名(男3名/女8名)	
パーティスタッフ	省略	
参加メンバ	省略	
費用	26,600円(交通費¥11,500+宿泊費¥14,300+入園料・飲物代金・通信費等¥800) 一人当たり: 26,600円 カンパ金: 70円	
	交通費:①共通交通費 ハイエースレンタル料(@17,710x2日)¥35,420、燃料代(軽油)(@150x(350+400)/8)¥14,100、高速道利用料金(圏央厚木⇄長野IC;中型車往復@7,340x2)¥14,680、ドライブ謝礼(@20000x2+宿泊加算2000+距離加算1000)¥43,000、善光寺駐車料金(2時間以内)¥600、ドライブ宿泊費¥14,300/共通交通費合計¥122,100/11人⇒一人当たり¥11,100、②奥裾花自然園シャトルバス(@200x11人x2)¥4,400/一人当たり¥400/一人当たり交通費合計①+②¥11,500 ③宿泊代(戸隠宿坊山本館)@14,300x11人/宿泊代総計¥157,300 ④入園料・飲物代金・通信費等のその他の費用: 奥裾花自然園入園料@410x11人)¥4,510、夕食時飲物代:¥3,220/一人当たり@293、通信費¥1,000/一人当たり@91/④その他の費用合計¥8,730/一人当たり@794; 集金¥292,600(@26,600x11人)ー総費用¥292,530(交通費①+②)¥126,500+③宿泊費¥157,300+④その他費用¥8,730=残金¥70(カンパ金)	
	5/09(月)	5/10(火)
所要時間	歩行/行動時間	歩行/行動時間
ガイドブック(歩行)	—	(奥裾花自然園 2:00~4:00)
計画(歩行/行動)	歩行~2:30/行動~4:00	歩行—/行動~2:30
実行(歩行/行動)	歩行 2:30/行動 4:04	歩行 1:41/行動 4:25
	歩行数: •5/09:~13,000歩 •5/10:~13,000歩	
コースタイム		
◆5/09(月) 天候:終日雨(戸隠奥社~森林植物園水芭蕉自生地ハイキング⇒鏡沼・中社・火之御子社・宝光社参拝) 圏央道/関越道/信越道 (昼食) 0:30 0:30 始発鳶尾=(荻野新宿・林)=本厚木旧3-カ`前=圏央厚木IC=高坂SA=横川SA=松代PA==長野IC=奥社入口—随神門— 6:00 6:13 6:29 7:26/7:40 8:45/9:00 10:06/10:16 10:18 11:25/12:15 12:45 0:30 0:15 0:25 (10分) (4分) (15分) (5分) 0:10 (10分) 0:10 —戸隠奥社—随神門—水芭蕉の園—奥社入口==鏡池==戸隠中社==火御子社=山本館—宝光社—宿坊山本館(泊) 13:15/13:25 13:55 14:10/14:20 14:45/14:55 15:03/15:07 15:15/15:30 15:40/15:45 15:50 16:00/16:10 16:20:到着		
◆5/10(火) 天候:晴(越水ヶ原・鏡沼・大望峠・奥裾花自然園・鬼無里農産物直売所・善光寺参拝) 朝拝 7:05-7:55/朝食 8:00~(水芭蕉鑑賞16分)(15分)(10分)(昼食29分)シャトルバス¥200 0:15 (水芭蕉鑑賞:歩行1:06/行動1:21) 宿坊山本館==越水ヶ原白樺荘水芭蕉園=鏡池==大望峠=観光セタ==自然園バス停—奥裾花自然園(今池・こうみ平湿原) 9:00 9:12/9:28 9:35/9:50 10:10/10:20 11:06/11:35 11:42 11:57-13:18(休憩~15分) 0:11 (18分)シャトルバス¥200 (10分) (買い物21分) 0:05 (50分) 0:04 —自然園バス停==観光セタ==鬼無里農産物直売所==善光寺P3—善光寺・門前町—善光寺P3==長野IC== 13:29/13:47 13:57/14:07 14:44/15:05 15:40/16:45 14:50-16:40 16:44 17:14 信越道/関越道/圏央道 =横川SA==上里SA==圏央厚木IC==本厚木駅入口== (林・荻野新宿) ==終点鳶尾 18:21/18:48 19:26/19:39 21:04 21:16 21:35頃		
コースの概要、特記事項、反省事項等		
◆計画立案まで: これまで、関東で「水芭蕉といえば尾瀬」という、半ば固定観念で、尾瀬に何度も水芭蕉を見に通ったが、最近の尾瀬の水芭蕉は、湿原土壌の富栄養化により可愛げがなくなり、びっしり群生する水芭蕉の姿を目にすることも少なくなった。また、この2年来のコロナ禍では、蜜を避けにくい山小屋に宿泊する気にもなれない。 そこで、目を転じ、奥信濃の戸隠高原や昭和39年に発見された本州最大の81万株の水芭蕉自生地として、知る人ぞ知る「鬼無里奥裾花自然園」に、水芭蕉を愛で、1泊2日行程で訪ねることを基本とし、神話の里戸隠の地に2300年前に祀られたという戸隠五社を巡り、千年の歴史を刻む戸隠神社宿坊に宿をとって、戸隠そば懐石料理に舌づつみをうち、戸隠の神々の前で、安寧を祈る朝拝を体験。さらに、7年毎(満6年)に開催される (2/4)		

前立て本尊ご開扉中の善光寺にも参拝。さらに、雪を戴いた北アルプスや鋭い岩峰が連なる山岳修験道の聖地「戸隠山塊や高妻山」の大景観も愛でるといふ、かなり盛り沢山のゆった〜り山行を立案することにした。

最大の問題は、水芭蕉の花が最も美しい時季に設定できるかどうかだ。水芭蕉が純白な花を維持できるのは、開花後数日間のみ。そのあとは、茶色に変色し始めて、容姿が急激に劣化してしまう。昨年の戸隠の水芭蕉の見頃は、ゴールデンウィーク前だったという。また、奥裾花の水芭蕉の見ごろは、経験的に大体戸隠のその1週間後あたりだといふ。今年の水芭蕉の見頃の時期はいつか？現地戸隠や鬼無里の観光協会や戸隠の宿泊先等と何度もやり取りして、アドバイスをいただいた。また、今年の冬は、ラニーニャ現象発生により、厳寒確率が高く、降雪量も多くなりそうとの気象長期予報も考慮し、立案者の経験と勘を働かせて、混雑するゴールデンウィークを避け、平年の見頃の時期より7~10日遅い、5/9-5/10の平日に設定することを決断した。また、宿泊先として、数ある戸隠神社宿坊で、リーズナブルな料金で、他所では味わえない「戸隠そば懐石」が評判で、戸隠地区で、3本の指に入る人気の山本館全館を早々に貸切予約することに成功した。

長期予報通り、奥信濃地方は、大雪の日が続き、2月末には、例年の1.5倍の4m超の積雪となり、水芭蕉の開花遅れが心配された。しかし、3月に入ってからの好天と気温上昇によって、雪解けが順調に進み、現地ライブカメラの映像から、日当たりの良い戸隠の平地の雪は、4/20には完全に解けたことを確認して、安どの胸をなでおろし、5/9-5/10には、見事な水芭蕉の群落に出会えるとの確信をもって、この日を迎えることができた。

◆5/09(月): 11人のメンバがハイエースに乗車して、曇り空の厚木市を早朝6:00amに出発。2.3日前の天気予報では、まずまずの天気のはずであったが、直前の予報では、曇り&小雨基調に変わってしまった。それでも、低気圧の中心に近い太平洋側より、日本海に近い長野市地区の方が、幾分天気の崩れが少ないという天気予報に希望を抱き、車窓から空を眺めながらの高速道車旅になった。途中、高坂SA、横川SA、松代PAの3か所で、トイレ休憩を取り、5時間余を要して、目的地の戸隠奥社入口に到着した。

途中、雲が切れて、青空が見えるのではないかと期待されるシーンもあったが、到着した戸隠は、雨がしとしとと降り続き、気温一桁の肌寒い、生憎の天気。やむなく、車内で昼食を摂り、トイレ棟の庇を借りて、完全雨装備を整えての出発となった。折からの氷雨に濡れそぼった山桜の花。まだまだ満開の花を見事に咲かせる八重桜のピンク色が際立つ。桜前線は、北海道根室に到着したそうだが、標高1200mの戸隠高原はまだ桜の季節のようだ。

北西方向まっすぐ延びる奥社参道は、距離約2km、標高差約135m、中間に位置する随神門までは、ほぼ平坦な道であるが、その先は荘厳な杉並木となり、標高差120m強の急坂を登っての奥社参拝となる。

大鳥居を潜って奥社参道に入ると、早速、水芭蕉を筆頭に、カタクリ、ニリンソウ、キクザキイチゲ、リュウキンカ等の早春の花々のお出迎えを受け、メンバから一斉に歓声があがる。多くのメンバがスマホを花々にかざし、写真を撮るのに忙しく、なかなか歩みが進まない。1kmの参道を進むのに30分を要して、ようやく、仁王像に代わって、弓矢を持った隨身(平安時代の貴族の護衛役)木像が左右を守る随神門に到着した。

門を潜った先は、樹齢500年級の杉並木となり、山野草に代わり、残雪の塊が目立つようになり、やがて、結構な登り坂が続く。社務所の建物下の左側に、平安時代には広く知られた戸隠山修験道の登り口がある。難所「蟻の塔渡り」を経て、八方睨に登り、ここから岩峰の険路を右に辿れば、戸隠山から九頭龍山に、左に辿れば本院岳から西岳に至る、戸隠山塊最難の登山道入口標識と案内板に目を通し、この奥に続く登山道の厳しさを想像した。

登山口を見送って、石段を一登りした先に、戸隠山の岩肌を削り取った高所に戸隠神社奥社と、その左隣に九頭龍神社が並んで祀られている。どちらも鉄筋コンクリート造の小さな本殿であり、心を込めて参拝した。

そもそも、戸隠信仰の起源は、天岩戸開きの神話に関わるもので、天照大神の隙について、天手力雄命が岩戸を神力で開けたところ、高天原から、この地に天岩戸が落下して、戸隠山が誕生したとする戸隠伝説に由来する。故に戸隠山は神が住む神聖な山域であり、その山腹に、岩戸を開けた神力の神「天手力雄命(あめのたちからのおみこと)」を祀った社(戸隠奥社)が、紀元前210年に建立されたのが戸隠神社の始まりだといふ。隣の九頭龍大神を祀る九頭龍社は、この地最古の社で、戸隠神社の地主神であり、心願成就の神徳が高い神として、特別な信仰を集めているといふ。これから訪ねる戸隠五社の残り三社は、1058~1088年ごろに、天岩戸神話に登場する主要な神を主祭神として祀った社だといふ。

参道を随神門まで戻り、右折して鏡池に向かう山道に入り、5分ほど樹林帯を進んだ先の道標に導かれて、森林植物公園内の水芭蕉群生地に向かった。ほどなく真新しい木道に出会い、水芭蕉園の道標に従って木道を少し進むと、落葉樹が点在する大湿原に、隙間なく、見渡す限り、可憐な水芭蕉の大群落が広がる大景観にびっくり。一目数万本という表現は、誇張のない、まさにこの景観のことだ。今咲きそろったばかりの可憐で純白の仏炎苞が、雨に濡れて、美しい姿を一斉に林立させる景観は、見事の一語に尽きる。今までこんなに大規模で、美しい水芭蕉の群生地を見たことがないと、参加メンバ全員から異口同音に「素晴らしい」との感想が聞こえた。

園内の木道を反時計回りに進むと、次々に水芭蕉群生地が現れ、黄色の小花を咲かせるリュウキンカが、程よいアクセントとなっている群生地や、最初に出会った「水芭蕉園」の標識のあった、群生地に負けず劣らぬ大規模な群生地に複数出会ったが、どの群生地の水芭蕉も、見ごろ真最中の美しい姿を見せてくれた。

当初計画では、北西方向に付けられた園内の遊歩道を通して、鏡池に向かう予定であったが、雪解け後の歩道整備が間に合わないためか、鏡池登山道につながる複数の遊歩道は、いずれも通行止めであった。(3/4)

行動を開始してから、間断なく降り続く雨もやむ心配がないことから、徒歩での鏡池行は断念し、スタート地点の奥社入口まで戻り、公園駐車場に待機中の車に pick-up をお願いし、雨具を脱いで身軽になってから車上の人となった。参加メンバに状況を説明して、ここから先の行動は、車利用に変更することで、了承を戴いた。

最初に訪れたのは、戸隠きつてのビューポイント鏡池。秋の紅葉期や春の新緑期に、目前に起立する戸隠山塊と西岳山塊が水面に逆さに映る絶景は素晴らしいと、誰もが感動する景観は、霧にかすんで台無しだった。

次に立ち寄ったのは、天の岩戸に引き籠る天照大神を、外に引き出す計略を立てた知恵者の神「天八意思兼命(あめのやごころおもいかねのみこと)」を祀る中社。社殿に参拝し、境内にある樹齢 800 年超の三本杉を見学。

次の立ち寄り先は、天岩戸の前で、見事な舞を舞った女神「天細女命(あめのうずめのみこと)」を主祭神とする火之御子社。演芸と開運、縁結び、火防の神様だそう。

最後は約 200 段の急な石段を登ってようやく辿り着いた宝光社。立派な社殿は神仏習合時代の面影を色濃く残す、江戸末期建築の立派な社殿を持つ。中社主祭神の御子神である女神「天表春命(あめのうわはるのみこと)」を主祭神とする。女性や子供の守り神として、尊崇される女神を祀る、特に女性に人気の神社だという。

戸隠神社五社巡りを無事済ませ、宿坊「山本館」に到着したのは、4:20pm。3 階の 12 畳和室 4 室に 3 人ずつ分散し、お茶を一杯飲んで、一休みしてから風呂で汗を流し、6:00pm からのそば懐石の夕食に備えた。

夕食会場は 2 階の個室食事処。お楽しみ戸隠そばの懐石膳は、見たことも食べたこともない戸隠産のそば粉を使った凝った懐石料理が次々に 5 品ほど運ばれてきた。あとは、山菜の天ぷら、蕎麦がき、締めは打ち立ての手打ちそばにデザート。どれも絶品で、全員完食した。ご主人夫妻の他、ご家族総出の心配りのきいた申し分のない接待と相まって、全員、気持ちよく、満腹・満足。評判のそば懐石を存分に堪能できた。

昨年 11 月に実施した近江牛グルメ旅に続いての戸隠そばグルメ旅。今後もこのようなグルメ旅を計画してほしいと、多くのシニアメンバから要望が出されたが、コスパが良いグルメ旅を企画立案するには、それなりの労力を要することから、正直気が重い。

◆5/10(火): 早朝目を覚ますと、雲一つない快晴の青空。近くの集落内を散歩に出ると、下界は一面の雲海、南西の高みには、まだまだ多くの雪を戴いた五竜岳や鹿島槍ヶ岳等の後立山の峰々が、朝日に輝いていた。山本館の庭には、シダレサクラに八重桜、トウゴクミツバツツジ、シャクナゲ、シラネアオイ、キバナカタクリ等々が一斉に咲きそろう、奥信濃の遅い春を謳歌しているようだ。

宿坊内に鎮座する九頭龍大神を祀る九頭龍社神殿で毎朝執り行われる朝拝への参列をお願いしてあった。神殿に 7:05am に集合。神職は 90 歳になるというご主人のお父さん。戸隠五社のいわれや、柏手の正しい打ち方、神前に櫛(櫛の代わり)の枝を供えて、参拝する作法等について一通りレクチャーを受けてからの開始となった。神職が戸隠五社の神々に、本日の朝拝参列者である TTC12 名の住所・氏名を読み上げて、参拝者の安寧を願う祝詞をあげたのち、一人ずつ神前に進み出て、櫛の枝を捧げ、2 礼 2 拍手の作法で参拝を済ませた。参拝記念として、神札に参拝者の住所・氏名が記入された「御守」を頂き、約 50 分間の朝拝のお勤めが終わった。その辺の神社で、相当高額な奉納金を収めて神前で行ってもらえる参拝に比べ、何倍も丁寧で、充実した神前参拝礼法をしていただいて、全員晴れやかな気分になり、これまで経験したことがない貴重な体験をしたと大喜びするメンバが多かった。

和食の朝飯を頂き、9:00AM に、宿坊のご主人ご夫妻に見送られて出発した。山本館は宿坊として、何年前からあったのか?と尋ねてみたところ、正確にはわからないが、ご主人が 58 代目とかで、おそらく 800 年以上続いているのではないかという答えが返ってきた。

出がけに、奥様の実家である戸隠越水ヶ原の白樺荘が管理する水芭蕉群生地が、今まさに見ごろを迎えているので、よかったら立寄ってみられたらとのおすすめを頂いたので、鬼無里に向かう前に、中社のすぐ先にあるおすすめ群生地に立ち寄った。

昨日訪ねた森林植物公園内の水芭蕉園に比べ、規模は小さ目だが、手入れが行き届いており、水芭蕉の密度が濃く、朝日に照らされて、ひときわ純白さが目立つ仏炎苞が林立する様は実に壮観だ。昨日の雨に濡れた水芭蕉も、それなりに情緒があつてよかったが、朝日に輝く水芭蕉は、幾倍にも増して美しく見えた。昨日は姿を見せなかった戸隠山塊が樹林越しに垣間見え、水芭蕉群生地の遠景として、見事な役割を果たしていた。

白樺荘の奥様の話によると、今朝霜が降りたので、美しい水芭蕉の花が見られるのも今日が最後かも… 霜に遭うと、純白の仏炎苞の上部から茶色に変色し出して、急激に見栄えが悪くなってしまうとの話。今朝、戸隠越水ヶ原で、最も美しい水芭蕉の花に出会えて、本当にラッキーだった。

昨日雨の中、訪ねた鏡池へは、越水ヶ原から、車で 10 分足らずの至近距離。折角の機会、好天の鏡池の景観に再チャレンジしようとの CL の提案で、鏡池に立ち寄った。真つ青の空に、戸隠本鋒の岩峰群が、その左側には戸隠西岳の岩峰群が起立し、前景に新緑の森が鏡池を取り囲むように配置された景観は、いつ見ても見事だ。さすが戸隠随一の絶景ポイントといわれるだけのことはある。生憎、湖面にさざ波が立ち、湖面に写る逆さ戸隠山の姿がやや不鮮明だったのが少し残念だった。

宝光社前の T 字路を右折して、狭くて曲がりくねった県道 36 号線を鬼無里に向かった。途中、大望峠展望台に立ち寄り、西側に広がる雪を戴いた北アルプスの大パノラマを、また、北側に広がる戸隠西岳岩峰群の大展望を心行くまで楽しんだ。この展望台から見える北アルプスは、右から唐松岳、五竜岳、鹿島槍ヶ岳、爺ヶ岳と続く (4/4)

後立山連峰。さらに左に、針ノ木岳、蓮華岳、餓鬼岳、燕岳、大天井岳辺りまで、東側に位置する北アルプスの峰々だ。白馬三山は、天狗尾根の一部までで、その右に位置する白馬鑪以北は前山に邪魔され見えなかった。

大望峠から狭くて急なくね道を下って、裾花川沿いの国道 406 号線を進み、奥裾花林道を走ること、約 45 分で、ようやく大駐車場がある奥裾花観光センタに到着、ここで車を降りた。

シャトルバス発車まで約 30 分あったので、トイレを済ませ、早昼食を済ませてから、11:35 発のバスに乗り、奥裾花自然園に向かった。普通であれば、バスは「平成の森広場」の看板のある広場まで入るのだが、平成の森広場まで徒歩約 10 分の手前道路の路肩が崩れて、現状、バスの通行が困難であるため、その手前がバスの終点になっていた。数年前に訪ねた際は、駐車場から平成の森まで 30 分ほど歩かなければならなかったが、最近では、4/29 の自然園開園日から、5/15 までの水芭蕉が見ごろの期間のみ、長野駅からの長距離バスと、駐車場から平成の森広場手前までの一日 5~6 便の季節運航のシャトルバスが走るようになった。

我々11名は、奥裾花自然園推奨の水芭蕉散策 2.5 時間コースをたどることにし、コース案内に従って、自然園最大の今池湿原(標高 1250m/一周約 1km)を反時計回りに 3/2 周したのち、標高が 20~30m 高い位置にあるこうみ平湿原(一周約 600m)を反時計回りで一周して、平成の森に戻る、約 2 時間のトレッキングを楽しんだ。

昭和 39 年に、奥裾花川の奥地に、広大なブナの原生林と水芭蕉が群生する湿原が発見された。その際、周囲 1000m の今池湿原に密生する水芭蕉の数を調査した結果、81 万株であったといい、その数は、尾瀬をしのぎ、本州最大級の水芭蕉群生地と認定されたという。現在は、この奥に数 10 万本の水芭蕉が群生するこうみ平湿原が発見され、一帯が自然公園として整備され、長野市が大切に管理している。

今池湿原の周遊コースに入ると、雪が解けた部分には、密生した水芭蕉が一斉に花を咲かせており、先に咲き始めた水芭蕉の仏炎苞は、すでに盛りを過ぎ、茶色に変色してしまっているものも多く見かけた。まだ雪が残っている部分もあり、また、雪が解けたばかりの場所には、芽を出したばかりで、これから花を咲かせる水芭蕉も多く見られた。雪がまだに残った広大な湿原に咲く水芭蕉の花は、遠方では白色の小さい点々となって、湿原いっぱいになり、一目数 10 万本の水芭蕉が一望できる景観で、湿原にまだに残る残雪と相まって、変化に富んだダイナミックな景観が楽しめた。標高がわずかに高いこうみ平湿原は、まだ雪原が広がり、雪が消えた部分に、水芭蕉の花が咲き始めたばかりのようで、今池湿原とは、少し異なった水芭蕉の景観が見られた。

すでに雪が解けた平原状の湿原に咲く戸隠の水芭蕉は、一斉に咲きそろって、ほぼ同時に見頃を迎え、今回のように、最盛期に訪ねることができれば、素晴らしい景観に出会えるが、少し時期が外れてしまうと、期待外れの結果になることが容易に想像される。それに対し、複雑な地形を有する奥裾花の水芭蕉は、雪解けに応じて、順次咲き始めるので、多少時期がずれても、どこかの場所で、美しい純白の仏炎苞に出会える確率が高いと想像できる。今回両方の水芭蕉自生地を訪ねる奥信濃の山旅プランは、見ごろを正確に予測するのが困難な、水芭蕉鑑賞の旅としては、ベストに近いプランだったと、思わず自画自賛してしまった。

帰路、駐車場を出発して、林道を 5 分ほど走ったごく限られた秘密の場所に、高妻山と乙妻山が一望できるビューポイントがあり、車を止めて、写真に収めてきた。南西方向から高妻山の山姿を収めた写真はレアものである。

鬼無里中心部の「旅の駅鬼無里」にある農産物直売所と土産物店にトイレ休憩を兼ねて立ち寄ったが、午後 2 時半を過ぎていたこともあり、売れ残ったわらびの他、めぼしい野菜や山菜は残っていなかった。もう一つ楽しみにしていたおやきの名店「いろは堂本店」は火曜日定休のため、残念ながら、おやきを食べそこねた。

この後、まっすぐ長野市内に向かい、コロナ禍で 1 年延期になって、4/下旬から 7 年ぶりに開催中の前立本尊ご開帳中の善光寺に参拝に立ち寄った。4/23 と 5/6 の中日庭儀大法要やゴールデンウィーク中は、何万人もの参拝客が押しかけて、大混雑するが、平日のこの日の 4:00pm ごろの善光寺境内は思ったほどの混雑はなく、本堂前に設置された回向柱に手を触れながら、願い事を心の中で唱え、全員無事参拝を済ませることができた。参道を少し歩き、いろは堂善光寺参道店で、鬼無里本店で食べそこねた、おやきを買って求め、店前の長椅子に座って、ようやく信州名物のおやきを味わった。善光寺名物の七味唐辛子を買って求めるメンバもいたが、帰りを急ぐため、善光寺参道の散策を早々に切り上げて帰路に就いた。

長野 IC から、上信越高速道に入り、途中、横川 SA と上里 SA の 2 か所で休憩を取り、善光寺から約 5 時間かけ、本厚木駅前に 9:15pm 過ぎに帰り着いた。

◆**特記事項**: 帰路横川上り SA で休憩中、男性メンバが、床に段差があるのに気付かず、踏み外してよろけてしまい、近くにあった椅子のひじ掛けに、後頭部から首筋付近をぶつけるというアクシデントが発生した。本人はどことも異常は感じられないとのことであったが、場所が場所なので、大事をとって、氷を購入し、直ちに打撲部を氷で冷やす応急処置を続けながら、ご自宅に無事帰着。翌朝一番に、脳外科専門のクリニックで、頭部の CT 検査・診断を受けた結果、どことも異常なしとの診断を受けた旨、参加者全員にメールが届き、全員胸をなでおろした。これも、無病息災と家内安全を祈願してきた戸隠神社の神々と善光寺の前立ご本尊のご加護のたまものだとの思いを強くした。今回の山旅の主目的は、水芭蕉より、戸隠の神々と善光寺前立ご本尊への参拝だったのだと思った。家を出てから帰り着くまでが旅。家に無事に帰り着くまで気を抜くことなく、油断大敵ご用心！を肝に銘じたい。